第４学年２組　特別の教科　道徳学習指導案

１　主題名 分けへだてなく　Ｃ　公正、公平、社会主義

教材名　　「いじりといじめ」　出典　日本文教出版「生きる力４」

２　ねらい　　　いじりといじめについて考え、いじりはいじめにつながることに気付き、誰に対しても分け隔てせず相手を大切にしようとする心情を育てる。

３　本時の指導

（１）準備：ワークシート、黒板掲示物

（２）指導過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学　　　習　　　活　　　動 | ・教　師　の　支　援　　○評　価 |
| つかむ　５分 | １　“いじりといじめ”について考える。いじりといじめは同じ？　違う？＜違う＞　　　　　・いじりは口、いじめは暴力。＜同じ＞・どっちも相手が傷つくことだから同じ。・いじめにつながるからどっちもいけない | ・道徳アンケートを行い、意見の紹介を簡単に行えるようにする。・いじりといじめについて知らない子もいるので、いじりといじめの一般的な意味の違いについて説明する。 |
| ふ　　か　　め　　る　　　　３０分 | ２　範読ＣＤを聞き、話し合う。みかさんはどうして「今の笑っていいのかな」と言ったのだろう・まさるは、本当は嫌かもしれないと思った。・まさるは、笑ってほしくなかったけど、友達が言うから笑うしかなかった。・本当は悲しかった。・いじりはよくない。授業で間違えたとき、いじりなら笑ってもいいの？＜笑っていい＞・失敗を笑いに変えれば大丈夫。・友達ならよい。＜笑ってはいけない＞・言われた時は笑っていても本当は嫌がっているかもしれないから笑っちゃダメ。・まさる君は本当は悲しかったかもしれない。・仕方なく自分で笑いに変えていただけで、本当は傷ついていたかもしれない。・いじりかどうかは、他人が判断できない。・他の人がいじりだと思っていても、言われた人はいじりと思っていない時もある。相手が傷ついている時点でいじめと同じ。・授業の時に間違えたらどうしようと不安になるから言ってはいけない。・私も笑われたらどうしようと、誰も言えなくなってしまう。・そもそも失敗を笑うのはいい気持ちがしない。失敗を笑わない。どういう気持ちで過ごすと、いじりをなくしていけるんだろう・友達の失敗を笑わない。からかうことを言わない。相手のことを大切にする。・友達のことを温かく見守ってあげる。・いじりでもいじめでも、相手が傷つくことをした時点でダメ。相手のことを考える。・みかみたいにダメなことはダメと言う。・悪いことを勇気をもって言えるようにする。・正しいことをきちんと言う。助ける。 | ・みかの発言から考えることで、教材文のあらすじを押さえ、「いじりはよくない」という共通の価値から話合いがスタートできるようにする。・道徳ノートに記入する時間をとる。・事前アンケートから「いじりでも笑ってはいけない」と考える子が多数であると予想される。なぜそう考えるのか、理由を考えられるようにする。・まさるの表面的な心情と内面的な心情の違いがあることに気付けるようにする。・友達ならよい、友達でなければいけないという意見が出た時には、友達ならすべて許せるかどうかを問い返す。・相手のこと、その子の気持ちを考える発言が出てきた時には、その意見に付け足す意見があるかどうか促していく。・いじりかいじめかどうかの意見ではなく、相手の気持ちを考えることの大切さに気付けるようにする。・よい行為や行動を目標にした子には、どんな気持ちがあればそれができるか、問い返しをする。・どんな気持ちを大切にするとよいか、その行動を支える気持ちについて深めていく。○いじりはいじめにつながることがあり、誰に対しても相手の嫌がる行動をしないことの大切さに気付くことができる。　　　　　　　　（発言・ノート）　 |
| つなげる１０分 | ３　本時の振り返りを行う。・今日の話合いで気付いたことは～・これから大切にしたいことは～ | ・書くことに困っている子は、板書の言葉を使って書くことを促す。○皆が気持ちよく生活を送るためには、分け隔てなく生活しようとする心情を高めることができる。　　　　　（発言・ノート） |

（３）評価

・　いじりといじめについて考え、いじりはいじめにつながることに気付き、誰に対しても分け隔てせず相手を大切にしようとする心情を高めることができたか。　　　（発言・ノート）

５　主発問分析

授業で間違えた時、いじりなら笑ってもよいの？

予想される児童の意見、切り返し発問

|  |  |
| --- | --- |
| 教材 | ・授業での間違いを笑った「げんき」が「まさるは気にしないよ」「気にするほどじゃない」と言う。・「みか」は「笑っていいのかな」と言う。・「いじめでなく、いじりだよ」という「げんき」の言葉にもやもやする「ゆうき」。 |
| 価値への高まり | ・まさるは、本当は嫌かもしれないと思ったから。みかさんはどうして「今の笑っていいのかな」と言ったのだろう。・まさるは、笑ってほしくなかったけど、友達が言うから笑うしかなかった。・本当は悲しかった。いじりでも、ダメ。いじりはよくないと思うんだね。授業で間違えた時、いじりなら笑ってもいいの？・言われた時は笑っていても本当は嫌がっているかもしれないから笑っちゃダメ。・まさる君は本当は悲しかったかもしれない。・仕方なく自分で笑いに変えていただけで、本当は傷ついていたかもしれない。・いじりかどうかは、他人が判断できない友達ならいいの？・友達でもいや。仲良くたって、笑われるとよい気はしない。・他の人がいじりだと思っていても、言われた人はいじりと思っていない時もある。相手が傷ついている時点でいじめと同じ。・言っている人がそう思っているだけで、笑われた人は嫌な気持ちだと思う。・いじりだからよいとかではなくて、笑われるのは嫌だからやめた方がいい。いじりでもいじめでも、嫌な時は嫌なんだね。どういう気持ちで過ごすと、いじりをなくしていけるんだろう。・人のことを笑わないどんな気持ちがあればそれができるの？・相手のことを考える。自分中心ではなくて、相手を考える。・自分はいじりと思っていても、相手はそう思ってない時があるから気をつける。・相手を大切にする。 |
| ねらいとする価値 | ・いじりといじめについて考え、いじりはいじめにつながることに気付き、誰に対しても分け隔てせず相手を大切にしようとする心情を育てる。 |
| 第1学年及び第2学年 | 自分の好きなことにとらわれないで接すること。 |
| 第3学年及び第4学年 | 誰に対しても分け隔てをせず、公正公平な態度で接すること。 |
| 第5学年及び第6学年 | 誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。 |